

社協

第91号

社協あさきた

ボランティアセンターだより

編集発行

社会福祉法人

広島市安佐北区社会福祉協議会

広報委員会

〒731-0221 広島市安佐北区可部3丁目19番22号

安佐北区総合福祉センター4階

TEL.082-814-0811 FAX.082-814-1895

E-mail:kita@shakyohiroshima-city.or.jp

http://shakyohiroshima.jp/asakita/

発行部数／52,000部

2014年(平成26年).新春



特集 子どもたちの居場所づくり 英語でつながる支援の輪

可部

可部南地区



英語のパズルで楽しみながら学んでいる子どもたちと広島文教女子大学の大学生

目 次～主な内容～

- 特集 子どもたちの居場所づくり..... P1～P2
英語でつながる支援の輪
- ボランティアグループとNPO法人のコラボ ほか..... P3
- わたしのまちのきらりびとさん P4
- いきいきボランティア P5
- ふれあいフォトコンテスト 入賞作品決定 ほか..... P6

この広報紙は赤い羽根共同募金の配分金を一部充当して作成しました。

英語で遊ぼ！サロン



毎月第2と第4土曜日10時から11時30分に可部福祉センター（可部南2丁目）では、「ABCのうた」がリズミカルに聞こえてきます。これは、可部南地区社会福祉協議会と文教女子大学による「英語であそぼ！サロン」です。平成25年9月からはじまった取り組みで大学生が講師になって、年少から小学生4年生の子どもたち約30名に、英語にふれながら楽しさを伝えています。

可部南地区社協では、これまで同センターで学習サロンを実施していましたが、講師を務められていた地域のボランティアさんが引越しをされたため、大学に相談をしたことがきっかけでした。

12月14日には英単語のbingoや英語音楽を使ったゲームなどを行い、会場は笑い声や笑顔がたえません。

森吉 夏音さん（8歳）は、「英語はよくわからなかったけど、友達と一緒に遊びながらできるので楽しい。」と目を輝かせていました。「子どもだけではなく、ここに来ている親同士の交流にもなっています。子どもも自然と英語が好きになっているようです。」とそばで見守るお母さん。

大学生の恩田 有紗さんは、「今月で4回目です。子どもたちは早くから雰囲気にも慣れてくれ、私たちが子どもたちのパワーに引っ張られています。少しでも英語を好きになってほしい。」と話されていました。

可部南地区社協の上中事務局長は、「お姉さんと一緒に、ふだんの学校とは違った雰囲気を味わってほしい。」とこれから抱負を語られました。



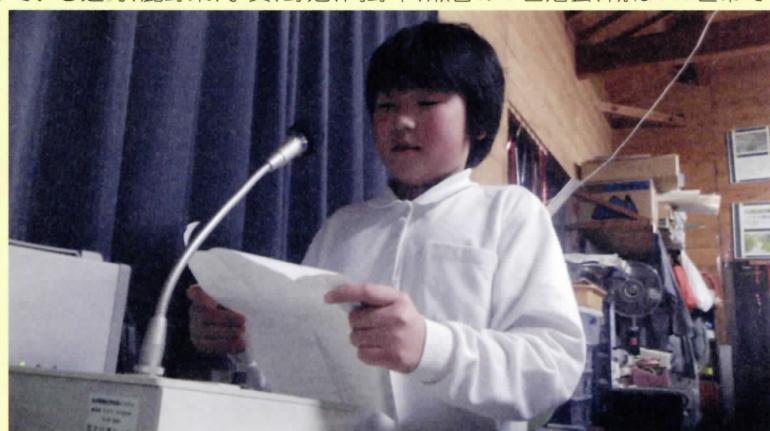
小学生による元気のできる無線放送



平成26年1月に26回目の放送を迎えた「久地小だより放送」が地域の方の元気を生みだしています。毎月第一水曜日の午後6時から、地域おこしグループ「久地北・太田川げんき村」に設置してある無線放送設備を使って、久地小5年生の木下颯悟君（10歳）が学校でのできごとを中心に、行事の日程や地域とのふれあい活動などを話されています。

放送エリアは久地地域内の受信機を設置している迫崎、鹿野巣、宇賀、野冠、間野平、瀬谷の6自治会、概ね115世帯です。高齢化が進み、学生も少なくなった地域で、世代を超えた交流やつながりをつくろうと、平成24年に始まりました。

ある高齢者の方は、「子どもの声を聞くことも少なくなりましたが、この放送を聞くと元気がでます。」と毎月の放送を楽しみにされています。「サッカーが大好きな兄弟の末っ子ですが、これを通して何事にも積極的になりました。小学校を卒業しても続けてほしい。」と木下君のお母さんは子どもの成長に目を輝かせています。





ボランティアグループとNPO法人のコラボ

長年、可部地区の高齢者にお弁当を届ける活動をしている「いきいきグループ」が、NPO法人ウイングかべの「亀楽庵」と一緒に配達用のお弁当づくりを始めました。

ウイングかべは、精神に障がいのある方の社会参加と自立のための取り組みをしており、この活動がきっかけでいろいろな形に広がり、就労につながっていけばと考えています。

お弁当のご飯とおかずは「亀楽庵」のメンバーとスタッフが調理し、弁当に詰める作業から「いきいきグループ」のメンバーが加わり一緒に作業を行ないます。できたてのお弁当を「いきいきグループ」が4班に分かれて配達します。

今後は、「いきいきグループ」と「亀楽庵」のみなさんが一緒に配達し、利用者から直接お話を伺いながら、要望に合わせた弁当作りを目指しています。



飯室地域

若い力で地域の つながり市場を開催



安佐町飯室を中心に、若い世代同士のつながりが進んでいます。平成25年5月と10月にミニコンサートや新鮮野菜市、手作りの雑貨品、子どもが遊べるスペースなどを通して、子どもから高齢者まで楽しめるイベント「なないろマルシェ」が開催されました。このイベントは、地元の主婦や会社員、出身者などを中心とした30歳代7名で平成25年3月に結成した“TEAMなないろ”が行っています。何ができるか分からぬが、この住みなれた地域を元気にしたいとの思いから活動がはじまりました。メンバーの竹田さんは「ひとりの力ではどうすることもできなかつたが、私たちの思いに賛同いただいた地域や企業の方々のご協力により開催できました。継続して、世代を超えたつながりをつくっていきたい。」と思いを語られました。飯室地域の人口は、10年前と比較すると全体で500人減の約3000人、65歳以上の方は約300人増。次回のイベントは暖かくなった季節に開催を予定しています。

「可部カラスの会」にユネスコ活動奨励賞

このたび、まちづくり市民グループ『可部カラスの会』が広島ユネスコ活動奨励賞を受賞されました。ユネスコ精神の理念に基づく国際交流・協力、戦争のない平和な世界の実現のための活動や環境などの地球的課題に取り組む団体の育成と活動の推進を図るために、現在取り組まれている学校・団体の中から優れた活動を顕彰するのが「広島ユネスコ活動奨励賞」です。

『可部カラスの会』は、平成9年に結成されてから、「可部のまち案内」「郷土資料の収集や提供や学習応援」「大文字灯り祭り」「やさしさのまちづくり屋台村」「環境活動」など、「みんなでつくる可部のまちづくり」を合言葉に活動しています。



可部の賛金物語 紙芝居講談
(どこでも伺います)

すずらんひろば

子育て中のお母さんと子どもが気軽に立ち寄ってお話をしたり遊んだりできる、常設オープンスペース「すずらんひろば高陽」が10月1日に1周年を迎えました。一日に約25～26組の親子が来所され、遊んだりクラフトや編み物といった趣味の活動に参加されています。時にはお母さん達が講師となって講座を開催するなど、楽しく過ごされています。

お母さん達は、「近所に知り合いもおらず、子どもや同世代の人もいない。でも、ここに来れば好きな事ができるし、子ども以外の話題もできて話が盛り上がる。子どもも以前より人見知りをしなくなった。」と話されます。

スタッフの方も、遊びに来てくれる事でお母さん同士のつながりや社会性の向上につながっており、来る喜びを感じて貰える様になったと感じています。

「常設オープンスペース すずらんひろば高陽」

開設日: 月～金 10:00～15:00

場 所: 高陽タウンセンタービル(フジグラン高陽と同じ敷地内)

連絡先: 516-5353

<http://www.h-bunkyo.ac.jp/suzuranhiroba/top.html>





今回は、亀崎二丁目の 吉村 栄夫さん

(72歳 亀崎学区公衛協会長、亀崎自治連合会長、亀崎地区社協理事)です。

高陽ニュータウンは中四国地方で最大規模の団地ですが、団地で抱えられている課題や困りごとなどから、これまで取り組みに関わられてきた経緯を教えてください？

地域との関わりは、18年前に公衆衛生推進協議会の会長を引き受けたのが始まりです。当時はまだ会社員として働いていましたが、自分でも何か出来ないかと考えていました。そうした時、社協の役員から地域には留守家庭の子どもが多く、放課後が心配である事を知り、区役所に相談して児童館の時間外利用を認めてもらい子どもの見守りを実施しました。

しかし、いろいろな事情により4年目に中止しました。その後、広島県住宅供給公社の指導のもと、自分たちのまちを愛し、心からこのまちに住み続けたいという思いから、同じ志をもった方たちで、平成23年7月に「高陽ニュータウンまちづくり市民会議」を立ち上げました。

「高陽ニュータウンまちづくり市民会議」では、どのように取り組まれていますか？

取り組みの主体は、『子ども支援事業』『高齢者支援事業』『地域支援事業』の3事業を活動方針としました。『子ども支援事業』では夕方の留守家庭の子どもたちの居場所「ゆうやけルーム高陽」を立ち上げ、現在3人の小学生が宿題や読書をしながら過ごしています。『高齢者支援事業』では、朝から夕方までの時間を「手芸教室」や「洋裁教室」を高齢者の生きがいづくりとして開いています。『地域支援事業』は、「壊れたおもちゃの修理地区」「気がかりな方の外出支援」「草取り

私たちのまちで、キラッと輝くような地域活動をされている方を紹介しています。

や庭木の剪定、ちょっとした困りごとのお手伝い」「公園清掃」などに取り組んでいます。

また、地域の方がつくられた野菜など、これまで消費しきれず処分することもあったので、ぜひ地元の方に食べていただけないかと考え、地元のスーパーの協力もあって、毎週木曜日に販売しています。

私も、高齢者のひとりですが、高齢者でも生きがいや、やりがいを見つけ、お互いが喜び、助け支えあえる関係づくりを目指して、みんなでこの地域を守っていきたいと考えています。

そうですね、ありがとうございました。このように取り組まれてこられたことに、改めて敬意を表します。これからも引き続きご活躍ください。

アートを見ながらおしゃべり

チギヤラリーらくがき

地域のみなさんが気軽に立ち寄れ、おしゃべりができたり、交流のできるギャラリーが亀山4丁目にオープンしました。

絵や写真、手芸品などをたくさんの人人にふれてもらいたいとオーナーの沖野信子さん。

ギャラリーにはコーヒーを飲めるスペースもあり、地域の憩いの場として活用してもらえたと期待されます。

平成26年3月から毎月第2日曜日にフリーマーケットを開催する予定。

また、3月にはギャラリーを桜色に染めたいと考えおり、桜に関する作品を募集されています。

ぜひお立ち寄りください！

※ギャラリー利用、
フリーマーケット出店、
桜アート出展に関しては
下記まで。

お問い合わせ

チギヤラリー らくがき
☎814-8085



シリーズ 魅力ある広報紙作り

その5 見出しの「文法」 ネコの手アドバイス



文章を書き上げたら、見出しを付けてみましょう。見出しは、何が書いてあるかを短い言葉で紹介するキャッチコピーです。

スポーツ面の「カープ快進撃」などの見出しを見て、心躍るファンも少なくないでしょう。「わんぱくでもいい、たくましく育ってほしい」など、かつてのテレビCMは、今も記憶に残っていますか。

これらのキャッチコピーを考え出すには、時代を鋭く切り取るセンスが必要です。でも広報紙などの見出しを付ける時は、そんなに難しく考える必要はありません。まず、書いてある文章の中からキーワードを拾い出しましょう。そのためには、何度も読むことが大切です。

見出しをチェックしていくと、ちょっとした決まり、法則のようなものに気付きませんか。

まず字数です。8文字から長くとも12文字ぐらいです。新聞社で見出しなど編集を担当する部署を整理部といいますが、ここでは「8本10本」「9本10本」などの決まり文句があります。

主な見出しが8~9文字、それを補う脇見出しが10~11文字程度になっているからです。

孫
ら
の
笑
顔
生
き
が
い

元
氣
に
百
歳
毎
日
烟
仕
事

次は、文字の省略についての法則です。主語の後に付く「が」や「は」などの助詞が消えています。

「孫らの笑顔」(が)「生きがい」

1文字でも短くして活字を大きくしたいので、この場合「が」は必要ないです。

「元気に百歳」(を迎える)
「毎日烟仕事」(を続いている)

この見出しでは「(何が)どうした」に当たる述語(動詞など)が省かれています。

このように見出しには、一定の法則があり、一種の「文法」と考えてもいいでしょう。省略方を何回も練習していくと、リズム感もつかめ、短い言葉で表現できるようになります。

新聞社の整理記者は毎日、指を折って字数を数え、お念佛のように見出しを唱え、鍛錬していきます。単調で、地味な積み重ねの中から、ある日、時代の先端を切り取る「ひらめき」も出てくるのです。

広島文教女子大学 グローバルコミュニケーション学科
教授 岡馬 重充(おかば・しげみつ)

このシリーズは、広報紙づくりの工夫などを知ってもらうとともに、楽しく広報紙を読んでいただくための視点としてもお役立てください。

いきいき ボランティア



リサイクル工作ボランティア 田島 勇さん
(たしま いさむ)

リサイクル工作おじさんとしてたくさんのボランティア活動をされている田島勇さん(77才)。

活動のきっかけは、退職後に広島市環境サポーター養成講座を受講し、環境に関する普及啓発を行うサポーター登録をしたことから。

田島さんは、時間がある時に山や川にでかけ、石や木の実・小枝を集め、ストーンアートやリサイクル工作を小学校や児童館で教えています。

また、「可部ひょっこり村」のメンバーとして高齢者施設や地域行事で参加活動されています。

その他に、「可部ふれあい絵手紙会」で絵手紙を楽しんだり、「可部ガイドクラブ」で可部街道の案内などさまざまな場面で活躍されています。

「ボランティアは元気だからできる！ボランティアも計画をたてて無理をしないでやっているので、これからも出会いを大切に、元気でいる限りは地域のお年寄りや子どもと触れ合っていきたい。」と楽しそうに語っていました。

参加者募集

★ボランティアステップアップ研修会★

講 師:春日キスヨ氏

テーマ:家族リスクの高まりと地域支援

～つながり・支え・地域を拓く～

日 時:平成26年2月25日(火) 13:30～15:30

会 場:安佐北区総合福祉センター6階大会議室

対 象:どなたでも

参加費:無料

締切日:2月18日(火)

【申込み】電話またはFAX、メールにてお申し込みください。【申込先】安佐北区社会福祉協議会
TEL814-0811 FAX815-1895 E-mail:kita@shakyohiroshima-city.or.jp

★子育て応援ボランティア講座★ ～ステップアップ編～

小さなお子さんと関わる技を身につけませんか

内 容:乳幼児がよろこぶ折り紙

日 時:平成26年2月26日(水)

会 場:可部公民館(安佐北区総合福祉センター7階)

対 象:関心のある方はどなたでも ※託児あり

参加費:無料

締切日:2月19日(水)



イベント紹介

可部三丁目の「NPO法人あいあいねっと」は食品関連企業や農家、個人の方から、余剰食品を寄贈していただき、生活に困窮している人々を支援しているグループに分配する活動を行っています。

また、平成22年からフードバンクに寄せられる食品を利用し、ヘルシーメニューを安価で提供するコミュニティレストラン「まめnan レストラン」を始めています。ここではお客様にゆっくりとお食事と会話を楽しんで過ごしていただけます。今では、高齢者の方だけでなく小さなお子様連れのお客様も増え、地域の居場所の1つとなっています。

月に一度、三味線や踊りなどの催し物もあり、2月4日は節分、3月4日はひなまつりと季節にちなんだ料理や催し物が開催されます。

「まめnan レストラン」

可部3-9-22 (可部上市バス停で下車徒歩3分)

営業日:毎週火曜・金曜日 11:00～14:00(祝日休み)



ちよつ
と
みせん
ま
せん
立
ち
寄
つ
?

平成26年度 ボランティア活動保険更新のご案内

「ボランティア活動保険」は、ボランティア活動中におこる様々な事故に対する備えとしてボランティアの方々を補償する保険です。

補償期間:平成26年4月1日～平成27年3月31日

中途加入の場合は手続き完了日の翌日～平成27年3月31日となります。

※加入対象とならない活動もありますので、詳しくは区社会福祉協議会に問い合わせください。

	Aプラン	Bプラン	
年間保険料	基本タイプ	300円	450円
	天災タイプ	460円	690円

